

関西縄文文化研究会 第20回記念研究集会

関西縄文時代の集落と地域社会Ⅱ

関西の縄文時代集落と地域社会の特徴は何であろう。縄文時代を特徴づけるように語られることのある大規模な環状集落や貝塚、盛土遺構などは認められず、遺跡、遺構の発見数の少ないことも相俟って、数棟の建物跡からなるこぢんまりとした小規模な集落がその典型と見なされる。そしてその規模は、周辺の生態環境に規定されるとの見方も、かねてより関西の縄文時代集落論を特徴づけるものであった。果たして今日、そうした状況は如何に見えているのであろうか。同テーマによる第10回記念研究集会から16年、近年の資料の増加なども加え、遺跡検出数の比較的多い地域のケーススタディーと、土器生産や生業、埋葬などに関連する特徴的な遺構、遺物などを切り口として、関西の縄文時代における個別遺跡と地域社会との関りについて、今日的な理解と今後の課題とを展望したい。

開催日：2026年 3月 14日（土）・15日（日）

会場：京都大学文学部 第3講義室（対面参加者）

*対面＆オンラインのハイブリッド開催です。要旨集は会場での有償頒布とします。

*1日目のプログラム終了後、会場周辺で懇親会を開催いたします。要申込。

プログラム

〔第1日目〕 3月14日（土） 13:00～17:00 (12:30 受付開始)

13:00-13:10 開会挨拶 吉井秀夫（京都大学）

13:10-14:10 基調講演 「近畿地方の縄文時代集落・地域社会論をふりかえる」 千葉 豊（京都大学）

14:10-14:20 趣旨説明

14:20-14:55 発表1 「北白川遺跡群研究の現在」 小泉翔太（奈良県立橿原考古学研究所）

15:05-15:40 発表2 「近江からみる縄文集落と地域社会」 小島孝修（滋賀県文化財保護協会）

15:40-16:15 発表3 「播磨からみる縄文集落と地域社会」 大本朋弥（兵庫県立考古博物館）

16:15-16:50 発表4 「土器からみた地域社会－後期後葉の事例を中心に－」 木村啓章（大阪府教育庁）

〔第2日目〕 3月15日（日） 09:00～15:00 (08:30 受付開始)

09:00-09:35 発表5 「河内地域における縄文時代後晩期の集落と地域社会－生駒西麓地域を中心に－」

西山 集（東大阪市文化財課）

09:35-10:10 発表6 「水場遺構からみる地域社会－木津川中流域右岸の発掘調査成果から－」

渡辺幸奈（京都大学大学院）・福山博章・辻 康男（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

10:10-10:45 発表7 「近畿地方における縄文時代集落とはどのようなものか？」

岡田憲一（奈良県立橿原考古学研究所）

10:55-11:30 発表8 「16年目の墓から復原する関西の縄文集落－“少ない”をどう考えるか？」

加藤雅士（関西縄文文化研究会）

11:30-12:05 発表9 「人口論からみる地域社会」 矢野健一（立命館大学）

13:00-14:50 総合討論 コーディネーター；中村 豊（立命館大学）・岡田憲一

14:50-15:00 閉会挨拶

【参加申込方法】

下記URLまたは右記QRコードよりお申込みください。

<https://forms.gle/pbbb15DK2NcUouW29>

参加お申込みの締切りは、3月11日（水）17:00 です。

